

# 広島別院だより

Vol.44  
春号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会 発行

## 春彼岸会勤まる

三月二十一日に春彼岸会が勤まりました。講師は安本浩樹師（北広島町専光寺）と河野大介師（福山市光圓寺・聞法伝道塾修了生）です。以下法話の抄録です。

### 【安本浩樹師 法話】

#### ●胸に手を当てる考える

「考える」には二つある。一つは頭で考える。二つには胸に手を当てる考えるという事である。帰省中の四才の孫に「なぜナムアミダブツと言つの？」と尋ねられた。私はその素朴で深い問いに対して、その場を取り繕って答えることが出来なかった。私は孫に「大切な事を誤魔化して素通りせずに胸に手を当てる考えよ」と厳しく諭されたような気持ちであった。

#### ●真宗門徒とは

「あなたは親鸞聖人の前で堂々と私は真宗門徒ですと名のれますか？」というある人の問いがある。真宗門徒であるか否かの基準は、信心がはっきりしているとか、家が代々真宗だとか、帰敬式や得度式を受式したとか様々あるかもしれない。

しかし本当に大事なものは「私は真宗門徒でありたい」という願いがあるか否かではないだろうか。

#### ●帰る場所をいただく

その願いを形にしたのが帰敬式である。では帰敬式を受けたら真宗門徒かというと、そうはいかない。私たちの心は本来の願いを忘れてし



まうのだ。

しかし忘れても無かった事には出来ない。帰敬式とは、本来の願いを忘れても、また真宗門徒でありたいという願いに立ち返る場所をいただくということなのである。「本来の願いを忘れ、誤魔化して素通りしていかないか」という問いが必ず投げかけられ、原点に引き戻すはたらきと促しをいただくのである。彼岸もまた私たちを本来の願いに立ち返らせてくれる時節なのである。

### 【河野大介師 法話】

#### ●本願を疑い続ける私

阿弥陀仏の本願を「撰取不捨」と言う。善人も悪人も平等に、選ばず見捨てず救うということだ。果たして私はそれを本当に望んでいるのだろうか。私の心の中には善良に頑張って生きてきたという思いがある。いかなる悪人も平等に救うという仏の本願を心の何処かで疑い、拒絶しているのかもしれない。なぜ仏の本願を素直に信じ受け止められないのか。

#### ●素直に信じる子

幼い息子がインフルエンザに罹った時、熱になされながら私を呼ぶので、そばに行き「ここにおるよ」と声をかけると、



法話後のミニコンサート

## 広島別院公式 LINE

広島別院の公式 LINE を開設しております。

別院での行事案内等を発信しております。お気軽に「友だち追加」してください。



#### ●疑うことが仏縁となる

そんな悩んでいた時、親鸞聖人の「信順を因とし疑謗を縁として」という言葉に出遇った。本願を疑う心もまた仏縁となり、仏道を訪ね歩み続けていく力になるということだろう。私はこの言葉に助けていただいた。これからも「疑う」ということを縁とし、仏法を訪ね続けて行きたいと思う。

子供は安心して眠りについた。子供は素直に私を信じてくれていたのだ。こんな身近に無条件で信じてくれる存在があったのかと驚かされた。自分も幼い頃はそんな素直さがあつたはずだ。

ではなぜ私は仏の本願を疑い、素直に信じる事が出来ないのか。今までの経験や知識が邪魔をするのか。しかしそれらの経験や知識も、結局私の偏見に過ぎないのかと、がっかりするのである。

## 親鸞聖人の生涯を辿る

## 愚禿（ぐとく）

朝廷により僧籍を剥奪され流罪となった親鸞は、僧でもなければ俗でもない仏弟子だという自覚をもち、『愚禿』の名乗りをあげます。そして流罪先である越後の国府に居住することとなりました。越後は妻恵信尼の父と関りが深く（父は越後豪族の説あり）、当時は漁業によって栄えていたと言われ、流罪の身の上であっても生活には困っていなかったのではないかと考えられています。

一方、京都にはない自然の厳しさ、日本海の荒々しさや冬の豪雪などを体験したり、この頃生まれた子どもの世話など、自らの生活に日々向き合っていたのではないのでしょうか。

流罪から四年の一二一年、師の法然と共に流罪を許されますが、親鸞は京都に帰らず越後に留まります。越後で生活し様々な身分の人々と出会う中で、親鸞が過ごした比叡山や京都とは違う、中央から離れた世間の生活を体験しました。その中で法然の教えを何度も憶念し、愚かな自分が救われる道は念仏しかないと思えて確認したと思います。そして一二四年に、民衆へ念仏の教えを広めるために親鸞は関東に向かいます。

## 法座・講座等のお知らせ

## 6月8日(土) 仏教入門講座

【講師】 ましるよしまる 真城義麿 先生 【次回 8月31日(土)】

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500 円

〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉



## 7月6日(土) 非核非戦法会兼原爆死没者追弔会

【講師】 たまみつじゅんしょう 玉光順正 先生（兵庫県 光明寺前住職）

【日程】 14:00～勤行と法話 16:30 終了予定

非核非戦法会兼原爆死没者追弔会をお勧めします。仏教の視点から戦争の問題について語られます。お誘い合わせのうえご参詣ください。



## 毎月5日 定例法話（ご命日の集い）

【講師】 県内僧侶（月替わり）【日程】 14:00～勤行と法話（15:00 終了予定）

〈広島別院開基 教如上人の御命日（毎月5日）に法話会があります。〉

## 道場樹

【編集室より】

「鬼は外、福は内」

うちの境内にしだれ桜がある。三十年程前に苗木から育ててきた桜で大木とは言えないが、往来の人の目を楽しませるくらいには成長している。

しかし十年程前から桜が咲く前にカラスがやって来ては悉く枝を折り持ち去ってしまうのだ。恐らく春に生まれてくるひな鳥の巣の材料に最適なのだろう。カラスにとっても生活がかかっているのか。以来、桜を守るために様々なカラス除けのグッズを仕掛けるなど攻防戦が続いているが、戦況は芳しくない。

ところが今春はなぜかカラスが殆ど来ない。長年の努力は実を結んだかと桜を見上げていると、近所に住む門徒さんがやって来た。私が「カラス除けの効果が遂に出て来ましたよ」と、したり顔で言えば「そのせいかな！」と言う。その方、曰く「今年はカラスがうちにやって来て、片っ端から枝を折っていく。お寺さんのカラスがうちに来とったんか」と。少なくとも、うちのカラスではないのだが……。

（H・N）

真宗大谷派(東本願寺)

広島別院 明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

TEL 082-241-5342（電話・FAX 共通）

東本願寺 広島別院

検索

